

# 副作用シグナル♥CHECKER デビュー !!

山口県薬剤師会の支援を得て、2011年4月にスタートした宇部薬剤会会員薬局との連携による「副作用シグナル検出システム」は、20カ月を迎える現在も、順調に稼働しています。

この間、本取り組みは、ベーリンガー・インゲルハイム ジャパン株式会社主催の「BI ファーマシストアワード(BIPA)2012」の“準グランプリ”を受賞しました。

その後、iPadのようなタブレット端末やiPhoneのようなスマートフォンで利用できるアプリケーション開発を検討していたところ、2012年6月にベーリンガー・インゲルハイム ジャパン株式会社のBIPA事務局より、アプリケーション開発の提案を受けました。開発後は無償配布を前提にしているということでしたので、その提案を受けました。そして、システム開発は株式会社プラスアールが担当し、2012年8月にアプリケーション案が完成し、実用化のための検討に入りました。

そして、2012年11月16日、ベーリンガー・インゲルハイム ジャパン株式会社からプレスリリースがあり、当社ホームページで、本アプリケーションの無料ダウンロードが実現しました。

本アプリケーションは、医療専門家用(タブレット端末用)と患者個人用(スマートフォン用)の2種類があります。そして、その利用範囲は、以下のようなものを想定しています。

- ①入院患者の副作用シグナル確認
- ②外来患者の副作用シグナル確認
- ③在宅患者の副作用シグナルの確認
- ④臨床試験における有害事象の確認
- ⑤災害時の避難所等における有害事象の確認

♥プレスリリースの内容と本アプリケーションの入手は、こちらから♥

[http://www.boehringer-ingelheim.jp/news/news\\_releases/press\\_releases/2012/121116.html](http://www.boehringer-ingelheim.jp/news/news_releases/press_releases/2012/121116.html)

患者の安全確保のために、①～⑤以外にも様々なケースで本アプリケーションをご活用いただき、アプリケーション改良に向けたご意見やご提案をお待ちします。

ご連絡は、本アドレス(di-info@yamaguchi-u.ac.jp)にお願いします。

山口大学医学部附属病院 薬剤部